

# VII 群落編

維管束植物

藻類



## Ⅶ 群落編

### 1. 維管束植物

#### (1) 調査概要

##### 1) 調査方法

熊本県では、昭和53年(1978年)に、環境庁の委託による第2回自然環境保全基礎調査が実施され、選定された37ヶ所の特定植物群落の調査が行われて、第2回自然環境保全基礎調査報告書(1978年)にまとめられた。また、昭和59年(1984年)度から昭和61年(1986年)度にかけて、第3回自然環境保全基礎調査(追加調査・追跡調査)が実施され、前回調査で選定もれとなった群落(特定植物群落)41ヶ所、その後に新たに発見された群落(追加選定植物群落)15ヶ所、前回の調査で選定された全群落37ヶ所の追跡調査が行われて、第3回自然環境保全基礎調査報告書(1988)としてまとめられた。以来、第5回自然環境保全基礎調査(1998)に至るまで、継続的な調査が行われてきたところである。これらの調査対象となった植物群落では、植物社会学的手法によって植生調査を実施し、群落の階層構造(各階層の高さ、優占種、植被率)、階層ごとの全種名、それぞれの種の群度・被度、生育状況などを記録し、植生現況の把握が行われた。

前回のRDB2009では、これまでの報告書や確認情報をもとに、それらの植物群落について可能な限り現地調査を実施し、その結果、単一群落(優占種がはっきりしている群落)35ヶ所、複合群落(群落がまとまって残されている地域)24ヶ所を、植物群落の選定基準(表4.1)に基づいてリストアップし、それらについて解説した。今回のRDB2019でも、これまでの報告書や確認情報をもとに可能な限り現地調査を実施し、その結果1ヶ所の単一群落を削除して、RL2014で選定された3ヶ所の複合群落を追加記載した。

##### 2) 調査結果の概要

今回の調査を通して、熊本県の植物群落の置かれた現状としては概ね以下の特徴が挙げられる。

##### ① 群落の消失

リストアップを予定された群落が、自然災害要因または周辺の森林の伐採や開発行為などの人為的要因によって消失したところがあった。

##### ② 自然災害による自然林の減少や群落構成の変化

北向山の自然林、根子岳の自然林、菊池溪谷の自然林では、熊本地震とその後の大雨により大規模な斜面の崩壊が各所で起こり、岩礫地状態の裸地が散在している状況が見られた。また、国見岳、雁俣山、市房山、白髪岳のブナ林では、台風などによる倒木が各所で見られ、群落構成の変化が認められた。

##### ③ 山地草原の減少

阿蘇波野原の山地草原や阿蘇山東原野の山地草原では、戦後の拡大造林によって人工林となったところが多く、残された草原も畜産業の低迷、過疎化、高齢化などによって放置されて藪になっているところが多く見られる。最近10年の間にも草原の減少は続いていて、およそ300haの草原が消滅している。

##### ④ 動物の食害による群落構成の変化

五家荘の自然林、内大臣の自然林、市房山の自然林、白髪岳の自然林、菊池溪谷の自然林、大官山の自然林、狼ヶ宇土の自然林、大川のコジイ林、鬼岳のスダジイ・イスノキ林では、シカの食害によって下層植生は極端に貧弱になっている。特に、五家荘のブナ林では、林床

を覆っていたスズタケが消失して裸地化しているところも見られた。以前は、ブナ林の林床をスズタケが鬱蒼と覆い、スズタケが生育していないところでは、オオマルバノテンニンソウ、キレンゲショウマ、オオバヨメナなどが一面に生えて華やかなブナ林が見られたが、今ではその姿を見ることができなくなった。近年、シカの食害防止のための防護ネットが敷設されるようになって植生の回復傾向が見られるが、一層の食害防止対策を進めるとともに、シカの駆除を継続的に実施していく必要がある。

#### ⑤ 湿地植生の荒廃

全体的に湿生植物群落の劣化が進行していて、湿地の消滅、埋め立てや乾燥化が県内各地で顕在化している。阿蘇端辺原野の山地湿原では、牧草地や野菜畑への改変をはじめ、湿地の埋没による環境変化などによって湿地の減少が著しい。山鹿一ツ目神社の湿生植物群落では、公園整備事業による埋め立てや地下水および滲出水の遮断などで危機的な状況にある。小国の流湿原では、周辺部からセイタカアワダチソウが次第に生育域を広げている。水俣の無田湿原では、乾燥化が進むなど湿地植生の荒廃が進行している。

#### ⑥ 海岸植生の減少

塩性湿地の減少が、危惧される状況にある。特に、RDB2009に記載された志岐のハマサジ群落は、海岸の改変や消波ブロックの設置などで消滅したと思われる。不知火町の塩生植物群落は、堤防下のわずかな場所に帯状に生育しているので、堤防工事などで群落の攪乱が進み、一帯のヨシ原には廃棄物やごみが散乱している。曲崎のシバナ群落は、人家や畑と隣接する遊水池にあるので人為的な手が入りやすく、消滅する危険性がある。高浜白鶴浜のコウボウムギ群落は、海水浴シーズン前になると砂浜全体を機械で均す攪乱が毎年行われている。また、妙見浦のハマビワ林は、海岸近くの緩やかな斜面にダイビング関連施設が造られているので、周辺の樹木の伐採や裸地化が進行している。牧島のウバメガシ林は、一般廃棄物処分場の裏の斜面にも成立しているので、これ以上の攪乱が入らないよう特に厳正な対策が望まれる。

### 3) 今後の課題

これまでの知見や報告書をもとにして、調査対象候補に挙げられた植物群落は多数報告されているが、継続的な植生調査の実施は調査能力の限界により十分とはいえない状況である。

このため、次回の改訂に向けた取り組みとして、継続的な調査に当たる調査担当者の育成や世代交代を推し進めるとともに、年に10ヶ所程度の定量的な植生調査を計画的に行うことが必要である。また、カテゴリーの定義に関しては、評価項目のより効果的な定量化を図り、広範囲な植物群落の資料収集に努めることが大切である。

さらに、これら植物群落のほとんどの場所では、自然災害による自然林の減少、シカの食害による下層植生の減少、山地草原の減少、湿地植生の荒廃、海岸植生の減少などの環境の悪化が深刻な状況になっているので、今後も継続的な植生調査を実施して保全状況を注視するとともに、地域・自治体とも協力して保全対策を推し進める必要がある。

## (2) 群落の解説

単一群落34ヶ所および複合群落27ヶ所について、以下で解説する。

## 単一 1 中岳山頂のミヤマキリシマ群落

熊本県カテゴリー

群落 阿蘇市(旧阿蘇町)・阿蘇郡南阿蘇村・高森町

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林
- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

## 【概要】

阿蘇中央火口丘の中岳火口周辺は、噴石や噴気にさらされて火山灰が堆積するなど、植物の生育には極めて不利な環境である。このような厳しい環境では他の木本植物のほとんどは生育することができず、その厳しい環境に耐えられるミヤマキリシマが純群落を形成している。この群落の低木層には、樹高 0.3～2.0mのミヤマキリシマが高い被度で出現するが、火山活動と寒冷や強風などの影響を受けて生育が抑えられ、よく刈り込まれた庭園木のようにになっている。草本層には、ススキ、イタドリ、マイヅルソウ、ヤマアジサイ、イワカガミ、アキノキリンソウなどが生育し、この植物群落の構成種は 15 種程度である。ミヤマキリシマ群落は、次第に表土が多くなるにつれてヤシヤブシ、ノリウツギなどが多くなり、より森林化した植物社会になる。ミヤマキリシマ群落は外輪山上の高所にも見られるが、仙酔峡、高岳の天狗の舞台、烏帽子岳、根子岳などにも群生地が見られる。

## 【現状】

阿蘇国立公園の特別地域内にあるため、面積の著しい変化はない。しかし、ミヤマキリシマの花の時期には多くの登山者や植物愛好家が訪れるので、踏み付けや採取による被害が憂慮される。また、病害虫の発生や野焼きの飛び火にも注意する必要がある。

## 単一 2 御所浦のツメレンゲ群落

熊本県カテゴリー

群落 天草市御所浦町

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群
- D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの
- I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

## 【概要】

御所浦町黒島の東部にある高さ約 20m、幅約 150mの範囲の海岸崖地に、ツメレンゲ(EN)の群落が成立している。ツメレンゲは、もろい岩質の斜面に群生していて、数十株が生育している。斜面の下部には、アラカシ、トベラ、シャリンバイ、クスドイゲなどの樹高約 1.5mの低木がまばらに生育していて、タマシダ、ヒトツバ、フジナデシコ、ハママンネングサ、テリハノイバラ、ハマナタマメ、ボタンボウフウ、カワラヨモギ、アレノギクなどが林床に見られる。また、黒島の東に位置する竹島の崖地にも数十株のツメレンゲが生育している。

## 【現状】

黒島は無人島なので、今のところ保存の状態は良好である。しかし近くにある黒島キャンプ場には多くの海水浴客が訪れているので、今後、人的攪乱をうける可能性が高い。また、植物愛好家などによる盗掘の恐れもあるので、今後の保護のあり方について留意すべきであり、早急な対策が求められる。

## 単一 3 高浜白鶴浜のコウボウムギ群落

群落 天草市天草町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

G 乱獲その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある群落または個体群

I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

## 【概要】

天草町の高浜にある白鶴浜は、県内でも数少ない天然の白い砂浜で、中央部の突堤より南側のやや盛り上がった砂浜に、コウボウムギ(E N)が優占する群落が小面積ながらマット状に成立している。このコウボウムギ群落には、ハマボウフウ、ハマニガナ、ハマヒルガオ、コウボウシバ、ケカモノハシ、ハマエノコロなどがパッチ状に混生している。また、中央部の突堤より北側の砂浜にもハマヒルガオ、コウボウシバなどが生育していて、この一帯には貴重な自然状態の砂浜植物群落が成立している。砂浜に沿う階段状の堤防に隣接した場所には、飛砂を防止するためのクロマツ林が保安林として整備されていて、マサキ、トベラ、シャリンバイ、クコ、ヒメユズリハなどの低木が混生している。林床には、ハマヒルガオ、コウボウシバ、ハマゴウ、ボタンボウフウ、ハマボス、ツルソバ、ツルナ、クルマバアカネ、コヒルガオ、エビヅル、ノブドウなどが生育し、付近には風で吹き飛ばされてきた砂が堆積している。

## 【現状】

高浜の白鶴浜は、雲仙天草国立公園の第2種特別地域内にあつて、九州本土に残された非常に貴重な自然状態の砂浜である。また、県内有数の海水浴場としても知られ、毎年多くの海水浴客で賑わうところである。そのため、海水浴シーズン前には砂浜全体を機械で均す攪乱が毎年行われる他に、シーズン中には売店やテントが設置され、あるいは海水浴客による海岸植物の踏圧が見られる。また、県の希少野生動植物に指定されているアカウミガメが産卵のために上陸する海岸でもあるので、これ以上の人為的攪乱が入らぬよう特に厳正な保存が望まれる。

## 単一 4 曲崎のシバナ群落

群落 天草郡苓北町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

## 【概要】

苓北町富岡の曲崎にある5m×8mほどの四角い遊水池の水際に、小面積ではあるがシバナ(E N)群落が見られる。この遊水池には海水の入り込む入口があり、北西側の泥質の塩生湿地にシバナがわずかに生育している。以前は、苓北町の他の場所にも生育地があったようだが、塩生湿地の開発により生育数が減少し、絶滅が危惧されている植物である。

## 【現状】

以前は、四角い遊水池の周囲にシバナが隙間なく生育していたが、最近では北西側の水際にわずかに見られるだけになってしまった。この生育地は、人家や畑と隣接しているため人為的な手が入りやすく、開発や埋め立てがあればたちまち消滅してしまう危険性があるので、特に厳正な保護が必要である。

## 単一 5 日奈久のカザグルマ群落

群落 八代市日奈久町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

## 【概要】

カザグルマ(CR)の自生地は、蛇紋岩という特殊な岩石が広く分布する地域で、スギ・ヒノキの植林とアラカシ・コジイを主とする二次林内にある。土壌の貧弱さから生育する樹木の成長は遅く、このような樹木にカザグルマは絡んでいる。低木層には、アラカシ、サカキ、コバノガマズミ、カマツカ、マルバアオダモ、モリイバラなどの他に、サルトリイバラ、カザグルマ、アオツツラフジが絡んで生育している。草本層にはヤマアジサイ、アラカシ、カマツカなどがわずかに生育している。

## 【現状】

カザグルマは、平成7年(1995年)に「特定希少野生動植物」に指定され、平成11年(1999年)には自生地一帯が県有林となって、継続的な生育量調査を行うための実験調査区が設けられた。また、平成17年(2005年)には「指定希少野生動植物」に選定され、カザグルマの生育を助長するための間伐が行われるなど保護対策が進められている。しかし、最近では個体数の減少が著しく、花の数もめっきり少なくなっている。植物愛好家などによる盗掘の可能性もあるので、今後の保護のあり方について留意する必要がある。

## 単一 6 平沢津谷のツガ林

群落 球磨郡五木村

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

平沢津谷のツガ林は、川辺川の支流である平沢津川左岸の標高650~750mの斜面に成立している。この付近の谷は益々深く、両側の傾斜は著しい急角度となっている。その左岸には、樹高25mを越えるツガが優占する他に、少数のウラジロガシも混生している。亜高木層、低木層には、ヒサカキ、ツクシシヤクナゲ、ハイノキ、ソヨゴ、ウラジロガシ、アカガシなどが見られる。草本層はコウヤコケシノブが多く、オオキジノオ、ツルリンドウ、シシガシラなどが見られる。

## 【現状】

このツガ林は、周囲のウラジロガシ林と共に、五木五家荘県立自然公園の特別地域内にあり、面積の著しい変化はない。しかし、ツガ林に隣接するウラジロガシ林の一部が伐採されて開放状態となっているので、さらに強い保護措置を考慮する必要がある。このツガ林は、県内で最も標高の低い場所に成立しており、五木地域内では自然度の高い重要な群落である。

## 単一 7 八方ヶ岳のモミ林

群落 山鹿市菊鹿町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

八方ヶ岳（1,062m）の標高960m付近の尾根の上部一帯に、モミが優占する林（シキミーモミ群集）が成立している。高木層にはモミが優占し、幹囲が2mを越えるモミの大樹が見られる他に、アカガシ、ツガなどが混生している。亜高木層にはアカガシが優占し、ツガ、モミ、コハウチワカエデ、コシアブラ、ハイノキなどが見られる。低木層にはハイノキが多く、アセビ、シキミ、シロモジ、コガクウツギなどが混生する。草本層には、ツルシキミ、ハリガネワラビ、ヤブコウジ、ベニドウダンなどがわずかに見られる。

## 【現状】

この林分は国有林内にあり、面積の著しい変化はない。県内では、まとまった規模のモミ林が残されているのは極稀で、ヤブツバキクラス域の針葉樹林の自然植生を知る上で貴重な群落であり、特に厳正な保存が望まれる。

## 単一 8 白岩山のモミ林

群落 球磨郡山江村・球磨村

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

白岩山（1,002m）は、球磨郡山江村と球磨村の境界に位置し、標高800m付近の南尾根一帯に、モミが優占する林（シキミーモミ群集）が成立している。高木層にはモミが優占し、樹高約25m、胸高直径1mに達するモミの大樹が見られる他に、ホオノキ、アカガシ、イヌシデ、コハウチワカエデなどが混生している。亜高木層には、シキミ、ヤブツバキ、シラキ、アカガシ、ウラジロガシ、ヤブニッケイ、コシアブラなどが植被率40%で覆っている。低木層には、アオキ、ハイノキ、ヤブニッケイ、ユズリハなどが見られる。草本層には、ツルシキミ、コガクウツギ、イワガラミ、キジノオシダ、シシガシラなど40種以上が生育していて、豊かな自然が残されている。

## 【現状】

白岩山一帯は自然林の多くが伐採されて、そのほとんどがスギ・ヒノキの植林地になっているが、この林分だけは伐採されずに残されている。しかし、周辺に林道が延びているため伐採される可能性もあるので、特に厳正な保存が望まれる。県内では、まとまった規模のモミ林が残されているのは極稀で、ヤブツバキクラス域の針葉樹林の自然植生を知る上で貴重な群落である。



## 単一 9 国見岳のブナ林

熊本県カテゴリー

群落 上益城郡山都町（旧矢部町）・八代市泉町

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

国見岳（1,739m）は、宮崎との県境に位置し、突出した山頂と尾根を除く標高1,200m以上の斜面上に、ブナが優占する林（シラキーブナ群集）がまとまった規模で成立している。高木層には、高さ約25mのブナが高い被度で出現する他に、ヒメシャラ、ツガ、シナノキ、ハリギリ、コハウチワカエデなどが生育する。亜高木層には、ブナが優占する他に、ヒコサンヒメシャラ、コシアブラ、コミネカエデ、アワブキなどが見られ、植被率20%程度である。低木層には、シロモジ、タンナサワフタギ、ミヤマガマズミ、サイコクイボタ、アセビなどが生育している。草本層には、シシガシラ、ツルナシオオイトスゲなどがわずかに見られ、林床を覆っていたスズタケは消失し、シカの忌避植物であるバイケイソウ、ミヤマシキミ、イワヒメワラビなどが目立っている。

## 【現状】

九州中央山地国定公園の特別地域内にあり、森林生物遺伝資源保存林にも指定されているので、面積の著しい変化はない。しかし、国見岳の登山道沿いでは立ち枯れた木々や倒木が多数見られ、シカの食害によって低木層および草本層の植生は極めて貧弱になっている。以前は、ブナ林の林床をスズタケが鬱蒼と覆い、スズタケが生育していないところでは、オオマルバノテンニンソウ、キレンゲショウマ、オオバヨメナ、アキチョウジなどが一面に生育し多様な下層植生が見られたが、今ではその姿を見ることがほとんどできない。群落の回復に向け、一層のシカの食害防止対策を進める必要がある。

## 単一 10 仰烏帽子山のブナ林

熊本県カテゴリー

群落 球磨郡五木村・山江村・相良村

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

仰烏帽子山（1,302m）は、球磨郡五木村、山江村、相良村との境界域に位置し、広く石灰岩で覆われたなだらかな山容をしている。その斜面の大部分は植林地になっているが、山頂に至る尾根筋にブナ林が見られる。この付近には、石灰岩の露岩が散在していて、高木層に樹高約16mのブナが高い被度で出現する他に、ミズナラ、アオハダ、コハウチワカエデなどが混生している。亜高木層には、樹高2~7mのコハウチワカエデ、タンナサワフタギ、アオハダ、カマツカ、コハクウンボク、コミネカエデ、クマシデ、シロモジなどが見られる。低木層には、樹高0.5~2mのコツクバネウツギ、ドウダンツツジ、コガクウツギ、オトコヨウゾメ、ウリハダカエデ、ナナカマド、リョウブ、ツリバナ、ヤマシグレ、ハリギリなどが見られる。この一帯は、石灰岩地が多いことから植物の種類が豊富な地域で、県内で稀産種とされるヤマトグサやイワザクラなど、多くの植物が生育している。また、元井谷から仏石に続く登山道沿いにはフクジュソウの群生地があり、花が咲く早春の時期には多くの愛好家でにぎわうことでも知られている。

## 【現状】

五木五家荘県立自然公園の特別地域にあるため、今のところ群落の面積に変化はない。しかし、シカによる下層植生の食害がひどく、これまでブナ林の林床を覆っていたスズタケが姿を消し、低木層および草本層の植生は極めて貧弱になっている。シカによる食害を防ぐための防護ネットを敷設するなど、食害防止対策を進める必要がある。

単一 11 国見岳のマンサク林  
 群落 上益城郡山都町（旧矢部町）

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

【概要】

国見岳（1,739m）の標高1,700m付近より上の突出した山頂や尾根筋では、強風や寒風の影響を強く受けるため、乾燥や強風に耐えることのできるマンサクが優占した風衝低木林が成立している。そのため高木層を欠き、亜高木層に高さ約6mのマンサク、ナナカマド、ノリウツギ、ツクシドウダンなどが生育し、植被率は10%程度である。低木層には、高さ約2mのツクシジャクナゲ、ツクシドウダン、アオダモ、マンサク、オオカメノキ、オオヤマレンゲなどが植被率30%程度で見られる。これらの樹木は、強風の影響を強く受けて枝の分岐が多く、樹形は小さくまとまっているのが特徴である。林床には、ヤマカモジグサ、アキノキリンソウ、トウゲシバ、シラネワラビなどがわずかに見られる程度である。突出した山頂や尾根筋から離れるにつれて強風や寒風の影響が少なくなり、次第に高木層の樹木が出現してブナ林へと移行する。

【現状】

九州中央山地国定公園の特別地域内にあり、森林生物遺伝資源保存林に指定されているが、シカの食害による下層植生の消失や土壌の乾燥化が急速に進み、マンサクの枯死や倒木が随所で見られる。付近には、シカの食害を防ぐための防護ネットが敷設されているが、一層のシカの食害防止対策を進めるなど、群落の回復を図る早急な対策が必要である。

単一 12 三角岳のイワガサ群落  
 群落 宇城市三角町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

【選定基準】

B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

【概要】

三角岳（406m）は宇土半島の西の突端にある山で、三角岳の南尾根の中腹にある安山岩の露頭が点在する馬の背状の雲竜台や標高150～250mの東尾根の岩場にイワガサ（NT）群落が成立している。この群落は、樹高0.7～1.5mの低木の疎林を形成して、海岸性の樹木のトベラ、シャリンバイ、コクテンギなどが混生している。草本層には、メガルカヤなどのイネ科植物や海岸性のカワラヨモギなどが混生し、イワヒバが優占しているところもある。

【現状】

一帯は、三角大矢野海辺県立自然公園内にあり、中腹より上部では自然状態が維持され、植生は良好に保たれている。また、三角岳へは多くの登山者が訪れていて、登山道沿いには案内板やベンチが整備され、中腹にある雲竜台からは天草上島の雄大な風景を望むことができる。そのため、植物愛好家などによるイワガサやイワヒバの盗掘のおそれもあるので、今後の保護の在り方について留意する必要がある。なお、イワガサ群落は、上天草市の柴尾山、飛岳、維和島でも確認されている。

単一 群落	13 緑仙峡のオニグルミ林 上益城郡山都町（旧矢部町）	熊本県カテゴリー 3 対策が必要
----------	--------------------------------	---------------------

【選定基準】

C 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布など、分布境界域の産地に見られる群落または個体群

【概要】

オニグルミの群生地は、緑川の上流域にある緑仙峡キャンプ場から内の口地区に至る途中の緑川本流と熊谷川の合流点（標高約600m）付近に見られる。この林分の高木層には、樹高約20mのオニグルミの他に、サワグルミ、ケヤキ、イタヤカエデ、ミズキ、クマシデなどが見られる。亜高木層には、樹高約8mのアブラチャンが優占し、クマシデ、チドリノキ、ツリバナ、エゴノキなどの落葉樹が混生している。低木層には、樹高約3mのアオキが目立ち、イロハカエデ、ヤハズアジサイ、ガクウツギなどが見られる。草本層には、ミズヒキ、テイカカズラ、ジュウモンジシダ、モミジガサ、ミゾソバなどがわずかに生育している。

【現状】

この林分は、九州中央山地国定公園および矢部周辺県立自然公園内にあり、今のところ面積の著しい変化はない。オニグルミは、県内の他の場所では谷沿いに点在するくらいであるが、ここでは10数本が集まって生育している。このオニグルミ林は植林された可能性もあるが、幹囲220cmを越える大樹もある。また、この林分の上部の急傾斜地や尾根筋にも落葉広葉樹の豊かな自然林が残されているので、オニグルミの群生地に限らず、その周辺の自然林を含めた広範囲の保護域を設けることが望ましい。

単一 群落	14 妙見浦のハマビワ林 天草市天草町	熊本県カテゴリー 3 対策が必要
----------	------------------------	---------------------

【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

【概要】

妙見浦は東シナ海に面した天草下島の西海岸に位置し、急峻な断崖が連続する海岸沿いに岩礁や奇岩が点在していて、天草西海岸を代表する景勝の地として知られている。この急峻な断崖斜面は常に強い塩風の影響を受けるので、海岸の厳しい環境に適応したハマビワが優占する海岸低木林（ハマビワトベラ群集）が成立している。この林分は高木層を欠き、亜高木層に樹高約8mのハマビワが優占する他に、トベラ、マサキ、ヤブニッケイなどが混じって樹冠を形成している。低木層には、ハマビワ、トベラ、ハマヒサカキ、シャリンバイ、モクタチバナなどが見られ、草本層にはオニヤブソテツ、ノシラン、ツルソバなどの沿海性の植物がわずかに生育している。

【現状】

妙見浦は雲仙天草国立公園の第二種特別地域内にあり、国指定の天然記念物および名勝にも指定されている。しかし、海岸近くの緩やかな斜面には、ダイビング関連の施設や芝生広場、駐車場などが造られているので、周辺の樹木の伐採や付近の裸地化が進行している。この一帯のハマビワ林の存続のためにも、これ以上の人為的攪乱が入らないよう特に厳正な保存が望まれる。

単一 15 <sup>ともえさき</sup> 巴崎のハマジンチョウ群落  
群落 天草郡苓北町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群  
D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの  
I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

## 【概要】

巴湾は、天草郡苓北町にある富岡半島の東端から南へのびる約1.5kmの砂嘴の内湾で、これに沿うようにして低木林が続き、ここにハマジンチョウ(CR)が優占する群落が見られる。ハマジンチョウは南方系の植物で、波静かな海岸の波打ち際に自生し、高さ2mほどで「半マングローブ植物」とも呼ばれる。この群落の構成種には、マサキ、トベラ、モクタチバナ、ハマボウ、ハマビワ、シャリンバイなどが含まれ、マサキやハマボウが優占する場所もある。渚沿いの砂礫地には、ハマツツナ、ナガミノオニシバ、ホソバノハマアカザ、ハマヒルガオ、フジナデシコ、ハマエンドウ、ハマグルマ、ボタンボウフウ、タイトゴメなどの海岸特有の植物が見られ、ハマゴウやハマサジの群落も見られる。

## 【現状】

巴崎のハマジンチョウ群落は、雲仙天草国立公園内にあつて、九州大学附属臨海実験所の研究用地にもなっている。また、昭和57年(1982年)に熊本県の天然記念物に指定されているが、以前に比べると個体数の減少が見られる。ハマジンチョウは、分布上特殊な南方系の海岸植物であるので、特に厳正な保存が望まれる。

単一 16 牧島のウバメガシ林  
群落 天草市御所浦町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

御所浦町牧島の東の中瀬戸に面した海岸沿いの斜面に、ウバメガシ林(トベラーウバメガシ群集)が成立している。この海岸付近には、御所浦町の一般廃棄物最終処分場が稼働している。ウバメガシ林は、この施設の裏の斜面にも成立していて、ほぼ純群落をつくっている。この林分は高木層を欠き、亜高木層に樹高約8mのウバメガシが植被率90%で優占する他に、タイミンタチバナ、コクテンギ、シャリンバイ、アカメガシワなどがわずかに混生している。低木層には、ウバメガシ、トベラ、タイミンタチバナ、ヒサカキ、シャリンバイなどが見られ、もろい岩石が露出していて乾燥している。そのため、草本層は未発達であるが、上層種の幼樹の他に、ツワブキ、シュンラン、ヘクソカズラ、ノキシノブなどが生育する。

## 【現状】

この一帯は、雲仙天草国立公園の第1種特別地域内にあるが、周辺の開発が進んでいて、保護のための特別な対策はとられていないようである。付近には一般廃棄物が放置された場所もあるので、今後の保護の在り方については留意すべきであり、早急な対策が求められる。熊本県では、まとまった規模のウバメガシ林が見られるのは、御所浦町横浦島の西海岸や竜ヶ岳の山頂付近に限られているので、これ以上の人為的攪乱が入らないよう特に厳正な保存が望まれる。

<b>単一</b> <b>群落</b>	<b>17 権現山のツゲ群落・ユズ群落</b> 球磨郡球磨村	熊本県カテゴリー <b>3 対策が必要</b>
------------------------	-----------------------------------	----------------------------

**【選定基準】**

H その他、学術上重要な群落

I 熊本県版RDB・RLにおいて絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

**【概要】**

球泉洞の東に位置する権現山（693m）は石灰岩でできた山で、山頂から西に延びる尾根の標高約470mの急峻な南斜面に好石灰岩性植物であるツゲの群落が発達している。この群落は、石灰岩地という特殊な立地のために高木層を欠き、亜高木層に樹高約6mのイスノキ、ツゲ、アラカシが優占している。低木層および草本層には、ツゲ、ヤブラン、イワカンスゲ、イワガネ、シロバナハンショウヅル、キリンソウなどが見られ、各層とも植生率は40～60%である。また、石灰岩の断崖の基底部に沿って、野生化したユズの群落も見られる。この群落は、高木層に樹高約10mのユズが優占する他に、ムクロジ、エノキ、ムクノキ、ヤブニッケイ、アラカシなどが出現する。亜高木層にはユズが優占する他に、野生化したと思われるモモも生育している。低木層には、ヤマブキ、バイカウツギ、イワガラミ、ナンテン、アオキなどが見られ、好石灰岩性の植物が多く見られる。草本層の優占種はヤブランで、イワガネ、ヤマブキも多く出現する。

**【現状】**

これらの群落は、石灰岩の急峻な断崖斜面の限られた立地に成立している。このため、人為攪乱が起こらないように留意する必要がある。熊本県のツゲの群落は、この地域にだけしか見られないので、野生化したユズの群落とともに保護対策が望まれる場所である。

<b>単一</b> <b>群落</b>	<b>18 大川のコジイ林</b> 水俣市	熊本県カテゴリー <b>3 対策が必要</b>
------------------------	--------------------------	----------------------------

**【選定基準】**

A 原生林もしくは、それに近い自然林

H その他、学術上重要な群落

**【概要】**

水俣市の東部に位置する大川のコジイ林は、鹿児島との県境になる標高600m前後の尾根の北西斜面に、熊本県を代表する極相に近い照葉樹林（ルリミノキーイチイガシ群集）が発達している。高木層には、樹高約20mのコジイが優占する他に、イチイガシ、アカガシ、ウラジロガシ、ツクバネガシ、イスノキ、クマノミズキ、ヤマザクラなどが植生率約80%で覆っている。亜高木層・低木層には、イスノキ、ヒサカキ、サカキの他に、ホソバタブ、ヤブツバキ、ルリミノキ、イズセンリョウ、バリバリノキ、ハマクサギなどが見られる。林床は薄暗く、コバノカナワラビ、オオキジノオ、ハナミョウガ、テイカカズラ、ミヤマトベラ、アリドオシなどがわずかに見られる。低木層と草本層の植生率は20～30%と低いですが、豊かな森が維持されている。この地域一帯はシダ植物の宝庫としても知られていたが、シカの食害によりほとんど見られなくなった。

**【現状】**

この林分は大関山国有林の一部にあり、土砂流出防備保安林、および熊本県の大川自然環境保全地域の特別地域、久木野林木遺産資源保存林にも指定されているので、今のところ面積の著しい変化はない。また、学術的に極めて貴重な森林植生であることから、国際生物学事業計画（IBP）の特別研究区域に指定され、国際協力のもとに生態学者による生物資源に関する研究が行われた地域でもある。このように、県南部に残された貴重な自然林が発達しているため、特に厳正な保護が必要である。

## 単一 19 矢城山土金国有林のバリバリノキ林

群落 葦北郡津奈木町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

水俣市と芦北町との境に位置する矢城山（585m）の標高約380mの北斜面に、小面積であるがよく発達した照葉樹林（ミミズバイースダジイ群集）が植林地の中に残されている。高木層には、樹高約20mのスダジイ、バリバリノキが優占する他に、タブノキ、イスノキ、ウラジログシなどが生育する。亜高木層には、ホソバタブ、サザンカなどが目立ち、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、シロダモなどの常緑樹も多く見られる。低木層には、アオキ、サザンカが優占する他に、暖地性の植物であるルリミノキ、センリョウ、バリバリノキ、ミミズバイ、イズセンリョウなどが生育している。林床には、フウトウカズラ、ハナミョウガ、コバノカナワラビ、カツモウイノデなどが見られる。

## 【現状】

この林分は、矢城山の土金国有林内にあり、津奈木町の水源涵養林としての役割も担っている。また、暖地性のバリバリノキが多く生育している林分は、県内では極めて稀であるので、学術参考林または保護林として保存することが望ましい。

## 単一 20 恋路島のタブノキ林

群落 水俣市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

恋路島は水俣湾の入口に位置する無人島で、島の内陸部の東部と西部にタブノキがほぼ純林をなす林（ムサシアブミータブノキ群集）が成立している。このタブノキ林は1970年代に全島伐採を経て再生したもので、高木層に樹高12~15mのタブノキやスダジイが優占する他に、ハゼノキ、ヒメユズリハ、クスノキ、ヤマモモなどが植生率80~90%で覆っている。亜高木層と低木層には、ネズミモチ、マサキ、ヒサカキ、シロダモ、ハクサンボク、カクレミノ、ヤブニッケイ、イヌビワ、オオムラサキシキブなどが混生している。草本層には上層の幼樹の他に、テイカカズラ、ノシラン、ホウロクイチゴ、ツブブキ、フウトウカズラ、ムサシアブミ、ムベ、ヤツデなどが植生率約30%で占めている。また、恋路島の南西に位置する恋ヶ浦の遠浅の海岸では、満潮時に海水に浸る塩沼地が広がっていて、ここに他の地域では見られないほど広範囲に発達したナガミノオニシバの群落が見られる。近年、このような塩沼植生は、入江や河口が改修されたり埋め立てられたりして激減しているので、極めて貴重な植生である。

## 【現状】

このタブノキ林は、全島伐採から40年以上にわたって萌芽成長したもので、樹高約15mの株立ちのタブノキやスダジイが散在している。その中には、株立ちの幹が5~7本もあり、その大きいものでは胸高直径が40cm、地表部の幹周りが3mに達するものも見られ、群落の生育状況は良好である。また、島の沿岸部の崖地や急傾斜地にはスダジイ林が成立していて、海岸沿いにベルト状に成立した照葉樹林は防風・防潮林の役目を担っている。このように、人為的影響がほとんど及ばなかったことによって成立した照葉樹林は、水俣湾の自然環境再生のシンボルとなる貴重な森林植生である。

## 単一 21 小岱山筒ヶ岳のスタジイ林

群落 荒尾市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

小岱山は、北から筒ヶ岳（501m）、観音岳（473m）などからなる山系の総称で、荒尾市と玉名市にまたがる花崗岩からなる山塊である。その尾根沿いの西側斜面にはスタジイが優占した林（ヤブコウジースタジイ群集）が成立している。高木層には、樹高約15mのスタジイの他に、クロキ、クロバイが多く出現する。亜高木層にはスタジイ、ヤブツバキ、タブノキ、イスノキなどが生育し、低木層にはネズミモチ、ヒサカキ、ハイノキ、カクレミノなど、多数の常緑樹が出現している。優占種をもたない草本層の発達は植被率10%と低いが、ササクサ、ヤブコウジ、ウラジロ、テイカカズラ、ナガバモミジイチゴなど、出現数は40種を超える。

## 【現状】

この一帯は小岱山県立自然公園内にあり、今のところ面積の著しい変化はない。しかし、小岱山山系は花崗岩からなり、地表は極めて不安定であるので、治山対策上からも自然林の厳正な保存が必要である。また、小岱山に至る尾根沿いには遊歩道が整備されていて、多くの植物愛好家や登山者などが一年を通して訪れているので、これ以上の人為的攪乱が入らないように留意する必要がある。

## 単一 22 住吉神社のスタジイ林

群落 宇土市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

住吉神社は、宇土半島から有明海に島状に突き出た標高約60mの島状の丘陵地に位置し、古くから船舶の航行安全の守り神として信仰され、日本最古の灯台があったところでもある。その住吉神社の社叢林（鎮守の森）には、スタジイ、タブノキ、クスノキなどからなる照葉樹林（ミミズバイースタジイ群集）が大切に守られてきた。高木層には、樹高15～20mに達するスタジイの他に、タブノキ、アラカシ、クスノキ、ヒメユズリハなどの常緑広葉樹が生育する。亜高木層には上記の樹種の他に、ヤブツバキ、カクレミノ、ボロボロノキ、ハクサンボクなどが生育するが、植被率は30%と低い。低木層にはヤブツバキ、クチナシ、イヌビワ、カクレミノなど、草本層にはテイカカズラ、ツルコウジなどの常緑のつる性植物が生育している。

## 【現状】

住吉神社一帯の森は、三角大矢野海辺県立自然公園の一角にあり、住吉自然公園として遊歩道や展望所などが整備されている。また、神社周辺の鎮守の森は熊本県の緑地環境保全地域に指定され、保存の状況はおおむね良好である。住吉神社一帯の海岸は古くから景勝地として知られ、公園の外周にはアジサイが数多く植えられ、日本最古の灯台跡には白亜の灯台が立っている。

単一 23 <sup>かるふもと</sup>古麓稲荷神社のスタジイ林  
 群落 八代市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

八代市街地の近郊にある古麓稲荷神社の背後には、山の地形を利用して築かれた中世の複数の城郭跡があり、付近一帯には、まとまった規模の照葉樹林（ミミズバイースタジイ群集）が成立している。この照葉樹林は、古麓稲荷神社の鎮守の森として大切に維持されてきたもので、神社の参道から奥の院を経て丸山城跡、新城跡などに至る遊歩道沿いには、高木層に樹高約20mのスタジイが優占する他に、イチイガシ、アラカシ、タブノキ、クスノキ、シリブカガシなどが混生している。亜高木層・低木層には、アラカシ、カンザブロウノキ、コバンモチ、ミミズバイ、イズセンリョウ、カゴノキ、カクレミノ、ネズミモチなどの常緑樹が見られる。草本層には、ウラジロ、オオカグマ、ナチシダ、テイカカズラ、サルトリイバラなどが生育しているが、シカの食害によって以前と比べて構成種数は少なくなっている。

## 【現状】

古麓稲荷神社の背後に広がる森は八代市の歴史景観風致地区に指定され、面積の著しい変化はない。また、八代市古麓歴史自然遊歩道公園としても整備され、高台にある城郭跡からは八代の市街地や遠くに天草の島々を見渡すことができ、市民の憩いの場所になっている。古麓稲荷神社の麓には八代城主松井家の菩提寺である春光寺があり、その背後の斜面にも豊かな照葉樹林が成立している。

単一 24 <sup>ひやすし</sup>冷水のスタジイ林  
 群落 水俣市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

水俣市袋の冷水地区にある丘陵地の比較的緩やかな南西斜面に、小面積ながら大切に残されてきた照葉樹林（ミミズバイースタジイ群集）がある。高木層には、樹高約25mのスタジイが優占する他に、コジイ、ヤマモモが混じり、植被率は90%にもなる。亜高木層は未発達で、タイミンタチバナ、ヤブツバキなどが生育する。低木層には、モッコク、ミミズバイ、ルリミノキ、クロキなどが目立ち、シリブカガシ、アラカシ、ヒサカキなどの常緑樹が多く見られる。草本層には上記の幼樹の他に、ヒトツバ、オオカグマ、コシダ、ウラジロ、マルバベニシダ、フユイチゴ、テイカカズラ、キダチニンドウ、サルトリイバラ、トキワカモメヅル、サネカズラなどが見られる。

## 【現状】

冷水のスタジイ林は、国の干害防備保安林に指定され、袋地区の灌漑用溜池等の局所的な水源の確保に役立っている。また、水俣市の水源涵養林にも指定され、良好な状態で保全されている。近くにある冷水池の傍には水神様が祀られていて、地域の人たちによって大切に守り継がれている。この林分は、国道3号線沿いに残された数少ない自然林であるので、厳正な保存が望まれる。



単一 25 鬼岳おんたけのスダジイ・イスノキ林  
 群落 水俣市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

水俣市の東南部に位置する鬼岳（735m）は、丸く突き出た山容をしていて、その大部分は植林地になっているが、標高 670m以上の山頂部分の東斜面に、スダジイやイスノキが優占する照葉樹林（イスノキーウラジロガシ群集）が成立している。高木層には、樹高約 18mのスダジイ、イスノキの他に、アカガシ、タブノキ、モチノキなどが混じる。亜高木層には、ヒサカキ、サカキ、ヤブツバキ、ネズミモチ、ヤブニッケイ、シキミなどの常緑樹が生育している。低木層には、ヒサカキ、アオキ、ミヤマシキミ、サザンカなどが目立ち、ウラジロガシも見られる。草本層の植生は極めて貧弱になっている。

## 【現状】

鬼岳の山頂には鬼岳神社の祠堂があり、鬼岳神社は古くから雨乞い・雨止めの神様として地域の人々の信仰を集めてきたところである。そのため、この林分だけは伐採されずに保存されてきたが、シカの食害による下層植生の減少は著しく、林床の乾燥化が進行して山頂部では枯死したアカガシの大樹が目についた。この林分の周囲は植林地になっているが、ここでは照葉樹林がまとまった規模で残されているので厳正な保存が望まれる。

単一 26 立田山のコジイ林  
 群落 熊本市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

熊本市の中心部から東北に位置する立田山（152m）には、市街地の近くに残された自然度の高いコジイ林が見られる。特に、立田山の南側中腹にある泰勝寺跡の裏山の約 1.5ha の林分には、極相に近い自然林が残されている。高木層には、樹高 20～23mのコジイが優占する他に、アラカシ、ナナメノキ、クスノキ、カゴノキなどが植被率 80～90%で生育している。亜高木層には、樹高約 12mのコジイやアラカシが優占し、カクレミノ、イヌビワ、ボロボロノキなどが混生している。低木層には、高さ約 4mのコジイが優占する他に、クロキ、アラカシ、イヌビワ、カクレミノなどが生育している。草本層は、多くの林分でオオカグマが優占し、コバノジュズネノキ、コジイなどが多く見られ、植被率は 90%にもなる。

## 【現状】

立田山の森林のほとんどは戦中・戦後に伐採されたが、このコジイ林は伐採されずに残されたもので、極相に近い森である。一帯は金峰山県立自然公園に指定され、良好な状態で保全されている。また、「森林ミュージアム立田山憩の森」としても整備され、各種のレクリエーションや環境教育の場として利用されている。

## 単一 27 大野溪谷のコジイ林

群落 人吉市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

大野溪谷は火成岩の浸食により形成されたもので、地表は露岩が多くやや乾燥した立地環境にある。この急峻な斜面に沿ってコジイ林（ルリミノキーイチイガシ群集）が帯状に残存している。高木層には、高さ約15mに達するコジイが植被率75%以上で優占している他に、ツクバネガシ、シラカシ、イチイガシ、タブノキなどの常緑広葉樹、エゴノキ、ヤマハゼ、カラスザンショウなどの夏緑広葉樹が混生する。亜高木層には、樹高約7mのアラカシが優占する他に、シロバイ、ヤブツバキ、シイモチなどの常緑広葉樹が多く出現する。低木層には、アラカシ、コガクウツギ、ウラジロガシ、イスノキ、ルリミノキなど、構成種は25種に達する。草本層は植被率5%とやや貧弱だが、ミヤマノコギリシダ、ナツフジ、ミヤマウズラ、カギカズラなど、構成種は約40種に及ぶ。高木層から低木層にかけても構成種が多く、全体の構成種は70種近くに達し、植物相は大変豊富である。

## 【現状】

熊本県の大野溪谷周辺自然環境保全地域に指定され、良好な状態に保たれている。この地域の自然林は、標高200～600mの間に成立し、県内におけるイチイガシ群集の垂直分布の上限に位置する良好な森林である。溪谷の両側には、カギカケの滝、小屋元の滝などの水量豊かな3つの滝があり、冷厳な雰囲気になった溪谷と自然林とが一体となった貴重な自然環境が維持されている。

## 単一 28 染岳のコジイ林

群落 天草市本渡町

熊本県カテゴリー

2 破壊の危惧

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

天草市（旧本渡市）の西に位置する染岳（380m）の山頂部を含む標高250m以上の北東斜面には、福連木の角山自然林などと共に、自然状態がよく保存された典型的な照葉樹林が成立している。高木層には、コジイが優占する他に、ウラジロガシ、タブノキ、イスノキ、オガタマノキ、ヤマモモなどが覆っている。亜高木層には、クロキ、ミサオノキ、モッコク、コジイ、イスノキ、ヤマビワ、カクレミノなど、低木層にはクロキ、ミサオノキ、タイミンタチバナ、サツマルミノキ、イズセンリョウ、シロダモ、カクレミノなどが見られる。また、本地域にはシダ植物も多く、シロヤマシダ、コクモウクジャク、ミヤマノコギリシダ、ナチクジャクなど60種ほどのシダ植物が確認されている。

## 【現状】

染岳の中腹には染岳観音院があり、ここの観音様は古くから縁結びの御利益があるとして信仰されてきたところである。山頂に至る登山道沿いには石仏も点在しているので、さながら霊場の感がある。そのため、この林分は大切に保存されてきたもので、付近にはオガタマノキの大樹（胸高直径約60cm）も見られる。また、熊本県の染岳自然環境保全地域の特別地区に指定され、保存状況も良好である。このような自然度が高い典型的な照葉樹林を維持している地域は他にはないので、特に厳正な保護が必要である。

## 単一 29 端海野のウラジロガシ林

群落 球磨郡五木村

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

五木村の北部に位置し、東西に平石山、子別峠、端海野と続く一帯は、標高 1,000m 前後のなだらかな尾根状の地形となり、この一帯より北側は八代市泉町、南側は球磨郡五木村に接する。この尾根状の地形から数本の谷が南側に深く落ちていくが、なだらかな尾根に沿うようにして標高 800~1,000m の幅でウラジロガシ林が带状に成立している。高木層は 15~20m で、胸高直径 30~60 cm のウラジロガシの他に、ヨグソミネバリ、アカガシ、アカシデ、イヌシデ、コシアブラなどが見られ、植被率は 60~90% である。亜高木層は 5~12m で、ウラジロガシ、シキミ、ヤブツバキ、モミ、コハウチワカエデ、ソヨゴなどが見られる。低木層には、ヒサカキ、ハイノキ、エゴノキ、シラキなどが見られる。草本層には、シシガシラ、コガクウツギ、フユイチゴ、トウゲシバ、クマワラビなどがわずかに生育している。

## 【現状】

このウラジロガシ林は、五木五家荘県立自然公園の特別地域内にあり、谷の侵食の度合いにより多少の差はあるが、今のところ面積の著しい変化はない。しかしながら近年、シカによる下層植生の食害がひどく、これまで林床を覆っていたスズタケが少なくなり、低木層および草本層の植生は極めて貧弱になっている。

## 単一 30 佐敷トンネル芦北側入口のアラカシ林

群落 葦北郡芦北町

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

佐敷トンネルは、昭和 40 年(1965 年)に国道 3 号線の佐敷太郎峠を貫いて造られ、芦北町海浦と佐敷側の山裾を結んでいる。アラカシ林は、佐敷トンネルの芦北側入口の東斜面を下ったところに見られ、石灰岩の転石が散乱する谷部および石灰岩の露岩が見られる急峻な斜面に成立している。このアラカシ林(ナンテン-アラカシ群集)は、石灰岩地という特殊な立地のために、他の地域のものとは比べると成長が遅く、樹高が低い傾向が見られる。したがって高木層を欠き、亜高木層に樹高約 12m のアラカシが優占する他に、イヌビワ、エノキ、ネズミモチ、シロダモ、マサキなどが生育する。低木層には、ホソバイラクサ、ナンテン、クスドイゲ、カンザブノウキ、マサキ、バクチノキなどが見られる。林床にはフウトウカズラが多く、アオツツラフジ、ムサシアブミ、アケビ、ツルウメモドキ、ツツラフジなどがわずかに見られる。この林分には、石灰岩地に見られるナンテンなどが常在的に出現することから、アラカシの二次林とは多少異なった種構成が見られる。

## 【現状】

このアラカシ林は、ヤブツバキクラス域の自然林の中で代表的な石灰岩地固有の群落であるが、保護のための特別な対策はとられていない。この林分の上部には石灰岩を採石した場所もあるので、今後の保護の在り方については留意すべきであり、早急な対策が求められる。

## 単一 31 肥後峠のアカガシ林

群落 八代市坂本町

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

肥後峠一帯は自然林の多くが伐採されていて、そのほとんどがスギ・ヒノキの植林地になっているが、米の窪から榎峠に至る尾根の標高 800m 付近の南西斜面に、アカガシが優占する林（ミヤマシキミーアカガシ群集）が成立している。この付近には、河内谷側からと市の俣側からの林道が通り、アカガシ林は林道によって上下に二分されている。高木層には樹高約 18m のアカガシが優占する他に、ウラジログシ、イスノキなどが混生し、植被率は約 80% である。亜高木層には、サカキ、ヒサカキ、モチノキ、アセビなどが見られ、植被率は 60% を占める。低木層には、アセビ、ハイノキ、ヒサカキ、ソヨゴなどが生育しているが、植被率は約 10% である。草本層には、ハイノキ、ミヤマシキミ、ヤブツバキなどが見られ、そのほとんどは上層の幼樹で、植被率は 5% ほどである。

## 【現状】

この付近では、林道工事の際にアカガシの大木の伐採が行われたが、今のところ、面積の著しい変化はない。県内では、アカガシ林の多くが伐採されて植林地になり、このような自然度が高いまとまりのある群落を維持している地域は他にないので、特に厳正な保護が必要である。

## 単一 32 上宮越のクスノキ林

群落 八代市

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

八代市街地の東部に位置する八峰山（574m）の中腹には、八代神社（妙見宮）の上宮跡があり、ここに至る上宮越と呼ばれる峠の標高 300～370m の北西斜面に、樹高約 20m のクスノキがほぼ純林をなす森が見られる。高木層は植被率 80～90% でクスノキが優占し、ケヤキが高木層まで達している林分も見られる。亜高木層は植被率 40% でケヤキが優占する他に、タブノキ、アラカシ、シリブカガシ、イチイガシなどが混生する。低木層は植被率 20～40% で、ヒサカキ、シロダモ、ネズミモチ、イヌガシなどの常緑樹が生育している。草本層はウラジロが優占し、シモバシラが多少目立つ程度である。

## 【現状】

上宮越のクスノキ林は上宮国有林の一部にあり、平成 20 年（2008 年）に「上宮クスノキ天狗の森」に指定されたこともあって、面積の著しい変化はない。このクスノキ林は、植林された可能性もあるが、県内でも希なクスノキ林として、環境省による自然環境基礎調査の対象地になったところである。しかし、周辺部で人工林の伐採が行われて林床の乾燥化が進行し、イノシシによる表土の攪乱も随所で見られる

単一 群落	33 松田のイスノキ・アラカシ林 葦北郡芦北町(旧田浦町)	熊本県カテゴリー 2 破壊の危機
----------	----------------------------------	---------------------

**【選定基準】**

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

**【概要】**

肥薩おれんじ鉄道の上田浦駅の南西にある松田地区の金山神社には、社叢林（鎮守の森）として守られてきた照葉樹林が残されている。金山神社は、八代海（不知火海）に突き出た丘陵地にあり、その下を肥薩おれんじ鉄道のトンネルが通っている。高木層には、樹高約 18mのアラカシが優占する他に、クロガネモチ、イスノキ、コバンモチ、ヤマモモなどの常緑樹が植被率 70%で生育している。亜高木層には、ヤブツバキが優占し、前記の樹種の他に、タイミンタチバナ、タブノキ、モッコク、ヒメユズリハ、シャリンバイなどの暖地性で海岸性の樹種が多く見られる。低木層にはクチナシ、ミミズバイ、ナナメノキ、イヌビワなどが生育していて、草本層にはテイカカズラ、ツワブキ、ベニシダなどが見られる。

**【現状】**

芦北海岸県立自然公園内にあり、金山神社の鎮守の森でもあるので面積の著しい変化はない。八代海（不知火海）に隣接する魚付保安林としての役割もあり、八代海（不知火海）に面するよく残された自然林である。しかし、この林分の上部は畑地で、付近には柑橘類の栽培が盛んに行われている場所もあるので、保護対策が望まれる。

単一 群落	34 水俣大滝のカツラ・ケヤキ林 水俣市	熊本県カテゴリー 2 破壊の危機
----------	-------------------------	---------------------

**【選定基準】**

C 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布など、分布境界域の産地に見られる群落または個体群

**【概要】**

水俣市の湯出川上流域には大小 7 つの滝があり、標高約 360mにある湯出大滝付近に、カツラ・ケヤキ林が成立している。カツラは県内では 700~800m以上の溪谷に生育しているが、この林分のような標高の低い所での自生は県内ではごく稀である。高木層には、ケヤキ、カツラ、ムクノキが多く見られ、亜高木層にはバリバリノキ、ヤブツバキ、ウラジログシ、ホソバタブなどの常緑樹が混じる。低木層には、イスノキ、ネズミモチ、タラヨウ、アオキ、シロダモなどの常緑樹が生育し、草本層にはフユイチゴ、キミズ、チヂミザサ、ヌカボシクリハランなどが見られる。このケヤキ林は植林された可能性が考えられるが、熊本県に分布するケヤキ林の南限域であると思われる。

**【現状】**

湯出川上流の七滝一帯には、水俣市による開発や観光施設の設置などの計画はないが、七滝を巡るための遊歩道が整備されていて、案内板やベンチなどが設置されている。付近一帯は、芦北海岸県立公園の境界付近に位置しているので、この林分を含めた広範囲の保護域を設けることが望ましい。

**複合 1 阿蘇端辺原野の山地湿原**  
**群落 阿蘇市（旧阿蘇町）**

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群  
 C 比較的普通に見られるものであっても、南限・、北限・隔離分布など、分布境界域の産地に見られる群落または個体群  
 E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの  
 G 乱獲その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなる恐れのある群落または個体群

## 【概要】

阿蘇北外輪山上の起伏に富んだ草原の凹状地に発達する中間湿原である。多くはチゴザサ、マアザミが優占し、サワヒヨドリ、ノテンツキ、コウガイゼキショウ、ゴウソなどが常在的に出現する中茎の湿生草原であるが、イトイヌノハナヒゲ、ムラサキミミカキグサなどが生育する貧栄養型の低茎湿生草原も散在する。また、ツクシフウロ、ヒゴシオン、オグラセンノウ、トキソウなどの希少種の生育を支えている群落である。なお、本植生は、野焼き、放牧により形成された二次植生であり、植生の保全には継続的な人為的管理が必要である。

## 【現状】

昭和中期～後期にかけて草地開発整備事業等にもない生育面積の著しい減少があった。近年は野焼き停止に伴う枯れ草の堆積、遷移の進行、周辺地域の植生の成長に伴う日照障害の進行、流入土砂の堆積などにより植生状況の劣化が進行している。また、ヨシの侵入が顕在化しつつあり、急傾斜の斜面に残された貴重な植物なども周囲の改良草地や畑からの土砂や肥料の流入、放牧牛の進入、盗採などで減少している。

**複合 2 山鹿一ツ目神社の湿生植物群落**  
**群落 山鹿市**

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

- D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

首石峠（標高約 300m）の南西緩斜面下部に生じた湧水によって発達した湿生草地で、草刈りなどの人為的管理により成立した二次植生である。平成5年(1993年)まで行われた公園整備事業によって湿地の主要部分が埋め立てられ、水路もコンクリート化された。そのため湿地の植生は重大な影響を受け、ムギガラガヤツリ、ナガボノワレモコウ、イヌセンブリ、チョウセンスイラン、サワトラノオなど、生育が確認できなくなった植物も多い。基本形はマアザミ、チゴザサを主要素とし、サワヒヨドリ、ゴウソ、マツバスゲなどが生育する中茎の湿生草原であるが、ミミカキグサ、モウセンゴケなどが生育する貧栄養型の低茎湿生草原に近い場所も局所的に見られる。また、群落内には広くホザキキカシグサが生育していて、南西部には幅1～2mの浅い水路から水量の多い湿地へと広がっている。ここではツルヨシが優占する他に、カサスゲ、テツホシダ、ツリフネソウなどが生育している。湿原の東側のため池にはシナミズニラ、ヒロハイヌノヒゲが見られたが、近年は確認できない。

## 【現状】

すでに、公園整備事業により群落の破壊が進み、湿生植物群落は危機的状況にある。埋め立てや地下水および滲出水の遮断など、これ以上の人為的な改変はさけるべきである。現在の植生状態を維持するためには、全域で定期的な草刈りを継続することが必要である。また、現状では公園利用者の湿原への踏み込は、植生劣化に繋がっていないが、その影響について今後も注視していく必要がある。

## 複合 3 小国の流湿原

群落 阿蘇郡小国町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

流湿原は、三方を丘陵地と山腹斜面に囲まれ、北西側に細長く出口がある谷地形の底部に発達した湧水湿地である。春期に野焼きが行われる二次植生で、昭和期には放牧地としても利用されていたが、現在は放牧が行われず、夏期に草刈り管理が行われている。主要部は南東側奥部でふくらんだとっくり状の形をし、その中央部を境に、北東側には全域にチゴザサーマアザミ群落、南西側には60%の面積にヌマガヤ群落、20%の面積にヨシ群落、残りの20%（湿地縁部）にセイタカアワダチソウ群落が生育している。チゴザサーマアザミ群落は高さ50cm程で、チゴザサ、マアザミ、エゾミソハギ、コバギボウシ、コシロネ、ヌマガヤなどを主な構成種としている。一方、ヌマガヤ群落は高さ1mを超え、ヌマガヤが植被率80~100%で優占し、群落の種多様性はやや低い。ヨシ群落、セイタカアワダチソウ群落も共に純群落に近い状態になっている。本湿地は、県内で唯一のヌマガヤ生育地である。

## 【現状】

サギソウの生育地として小国町指定文化財に指定されているが、湿原環境の劣化に伴いサギソウの生育量は大きく減少している。湿地全域にヨシが、湿地縁部にはセイタカアワダチソウが生育し、全体的に湿生植物群落の劣化が進行しつつある。湿地の集水域には全域に改良草地があり、ここからの栄養塩類の流入が植生変化に大きく関わっていることが推察される。夏期の草刈り管理によって、ヨシとセイタカアワダチソウの生育量増加は押さえられているが、根本的な対策が必要な状況になっている。

## 複合 4 羊角湾の塩生植物群落

群落 天草市河浦町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

河浦町の羊角湾に流れ込む早浦川と路木川の河口一帯には、泥質、砂礫質、礫質からなる塩生湿地が形成され、ハマまつな、ホソバナハマアカザ、ハマサジ、フクド、ナガミノオニシバ、シオクグなどの塩生植物が優占する群落のパッチ状に成立している。ハマまつなが優占する群落（ホソバナハマアカザーハマまつな群集）には、ホソバナハマアカザ、ハマサジ、フクド、ナガミノオニシバが混生している。ハマサジが優占する群落（ハマサジ群集）には、フクド、ハマまつな、ナガミノオニシバが生育する。フクドが優占する群落（フクド群集）には、ハマサジが混生している。また、県道266号に隣接した早浦川の河口付近には泥質の湿地が広がり、以前の調査ではハマボウ低木林の近くにシバナが優占する群落（シバナ群集）が見られたが、確認することはできなかった。

## 【現状】

これらの塩生植物群落は、雲仙天草国立公園内にあるので面積の著しい変化はない。しかし、早浦川と路木川の河口付近は国道266号に隣接する場所にあるので、河川改修や道路拡張などの工事が行われると大きな影響を受ける恐れがある。熊本県の海岸のほとんどは堤防工事などで改変され、海岸部の塩生植物群落のほとんどは見られなくなっているため、特に厳正な保存が望まれる。

## 複合 5 不知火町の塩生植物群落

群落 宇城市不知火町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

宇土半島の八代海（不知火海）に面した不知火町の塩屋浦から二本松にかけての海岸沿いには、小面積ではあるが、塩生植物であるハマツナの群落が見られる。この場所は、国道 266 号に沿ったコンクリートの護岸が続く海岸の一角にあり、満潮時に海水が冠水する泥質砂礫地やその周辺に成立している。このハマツナ群落の中にはハマサジ群落が帯状に見られ、場所によってはナガミノオニシバ、フクド、シオクグ、ホソバノハマアカザが優占するところもある。一帯には、ヨシ、シオクグなどの群落も混在している。

## 【現状】

これらの塩生植物群落は、コンクリートの護岸の下のわずかな場所に帯状に分布しており、道路工事や堤防工事などで人為的影響を受けやすい場所にある。また、一帯のヨシ原には廃棄物やごみが散乱していて、やや攪乱が進んでいる状況にある。さらに、試験植樹されたメヒルギが越冬しながら生育範囲を広げているので、周囲の環境への影響が懸念される。八代海（不知火海）の海岸のほとんどは堤防工事などで改変され、海岸部の塩生植物群落はほとんど見られなくなっているため、これらの群落の保護対策を急ぐ必要がある。

## 複合 6 江津湖一帯の水湿生植物群落

群落 熊本市

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【選定基準】

B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

江津湖は熊本市の東南部に位置し、加勢川の一部が拡大した膨張湖で上江津湖と下江津湖に分かれる。上江津湖上流部の流れがある部分には、ヒラモ、ササバモ、ヤナギモ、エビモなどの沈水植物が広く見られる。また、各地の湧水地には、ヒメバイカモ、セキショウ、マツモなどが生育している。また、湧水地の一角にはスイゼンジノリ発生地があり国指定天然記念物になっている。湖岸部にはヤマトミクリ、サンカクイ、ヨシ、マコモなどの抽水植物がベルト状に群落を作っている。上江津湖から下江津湖につながる部分は急に狭くなり、この部分にはヒラモなどの沈水植物が群落状に生育していて、左岸にはワンドスゲやテツホシダの小群落もある。下江津湖の湖岸にできた泥質の干潟状湿地には、キタミソウ、オオアブノメ、コツブヌマハリイ、アズマツメクサなどの希少種が生育している。下部域の両岸は広い湿地帯となって、ヨシ、マコモの群落が広がっている。また、江津湖の下流部で合流する木山川と秋津川に囲まれた水田地帯には、キタミソウ、オニバス、ミズアオイなども生育する。江津湖は都市部にありながら良質な水湿生環境が残されており、キタミソウやワンドスゲをはじめとして特殊性、希少性の高い湿生植物が数多く生育する地域として特異かつ重要である。

## 【現状】

近年、ボタンウキクサ、ブラジルチドメグサ、ナガエノツルノゲイトウ、オオフサモなどの特定外来植物が繁茂し、在来種の生育を著しく阻害する状況が見られる。熊本市などによる除去が行われているが、増加傾向に歯止めがかかっていない。その中で、キタミソウ、アズマツメクサ、オオアブノメなどの小型湿生植物の生育量が急速に減少しており、保護対策を急ぐ必要がある。



<b>複合</b>	<b>7 人吉の紅取ヶ丘湿原</b>	熊本県カテゴリー
<b>群落</b>	人吉市	4 緊急に対策が必要

**【選定基準】**

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

**【概要】**

紅取ヶ丘湿原は、人吉市西部の標高 300m付近に位置し、緩やかな丘陵地上部の馬蹄形の窪地に成立する湿地である。湿地周辺は緩やかなすり鉢状の地形で、スギ・ヒノキが植林されている。湿地面積は約 0.2ha で、細長いひょうたん形の地形をしており、最奥部が最も広い。湿地内には西側の数ヶ所に湧水が見られ、湿地状態が維持されている。この水源は年間を通して枯れることがなく、冬期も夏期と同じような湿地状態が維持されている。本湿地の植生は、短草型湿生植物群落、トダシバーチゴザサ群落、マアザミチゴザサ群落、トダシバーチノオ群落、カササゲ群落に区別できる。このうち、短草型湿生植物群落は湿地内の数ヶ所に 5～10 m<sup>2</sup>の面積で散在している。本群落域にはイトイヌノハナヒゲ、コイヌノハナヒゲの他に、ホザキミミカキグサ、コバノトンボソウ、サギソウなどの希少種が生育している。短草型湿生植物群落域以外はチゴザサマアザミ群落が広い面積を占めて本湿地の主たる植生となっている。チゴザサ、マアザミ、アリノトウグサ、シロイヌノヒゲ、ヌマトラノオなどの他に、ツクシカンガレイ、ミズチドリ、スイラン、ホタルイなどが生育している。本湿地は、コバノトンボソウ、サギソウなどの希少種が生育すると共に、短草型湿生植物群落が各所に見られるなど、全体として貧栄養な立地環境にあり、県南地域では最も自然度の高い湿地である。

**【現状】**

指定希少野生動植物であるサギソウの生息地等保護区に指定され、冬期に草刈り管理がされている。しかし、トダシバの生育量が増加するなど、緩やかに遷移が進行し、次第に湿性度の低下が進行している。また、湿地周辺の樹木の生長に伴い湿地内への日照障害や落葉・落枝の発生を引き起こしている。

<b>複合</b>	<b>8 水俣の無田湿原</b>	熊本県カテゴリー
<b>群落</b>	水俣市	4 緊急に対策が必要

**【選定基準】**

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

**【概要】**

無田湿原は、水俣市の東部の標高 450m付近に位置する。面積は約 4ha、継続的な野焼きにより形成・維持されてきた二次植生で、ネザサーススキ群落型の中生草原と湿生草原がモザイク状に混在している。全域にヨシが生育するため植生相観はヨシ群落状であるが、その下部には中生草原状態からネビキグサ、ハリコウガイゼキショウなどの抽水植物群落までの多様かつ連続的な植生がみられ、立地環境に応じて、ツクシカンガレイ、エゾミソハギ、チゴザサ、サツママアザミ、サワヒヨドリ、コバギボウシ、ヌマトラノオ、カキラン、コムラサキなどが生育している。局所的ではあるが、ミミカキグサ、モウセンゴケなどが生育する貧栄養型湿生群落も見られる。また、スギ植林に近い地域を中心にオオミズゴケが生育し、しばしばカーペット状の厚い群落になっている。

**【現状】**

熊本県自然環境保全地域、水俣市文化保護地区として保護されている。湿原の上部に灌漑用のため池があり、そこからの伏流水が群落を維持している。2000年代になって野焼きが行われなくなり、群落の高茎化や次第に湿性度の低下が進行し、ヨシおよびオオミズゴケの増加によっても植生の劣化が見られる。また、湿原の上部の植林地が大規模に伐採されているので湿地への影響が懸念される。

## 複合 9 角山の自然林

群落 天草市天草町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林  
H その他、学術上重要な群落

## 【概要】

天草下島の中央部に位置する角山（526m）から北側に連なる尾根と西側の斜面には、天草地域最大の面積を有する極相状態の照葉樹林が残されている。標高 400m以上の北西斜面にはイスノキ林（イスノキーウラジロガシ群集）が見られ、高木層にはイスノキの他に、アカガシ、スダジイ、タブノキ、ウラジロガシが多く、よく発達した林冠を形成している。亜高木層にはイスノキが多く、タブノキ、シャシャンボなどが生育する。低木層にはスダジイ、バリバリノキ、サツマルリミノキが目立ち、ホソバタブ、ヤブニッケイ、カクレミノ、クロバイ、シロバイなどの常緑樹が多い。標高 400m以下の北西斜面には、スダジイ林（ミミズバイースダジイ群集）が見られ、高木層にはスダジイの他に、ウラジロガシ、イスノキ、タブノキ、カンザブクロウノキ、ミサオノキ、ルリミノキ、ヤマビワ、ミミズバイなどが生育している。付近には高さ 20mほどのチャンチンモドキが生育し、コジイ、ウラジロガシ、イチイガシ、バリバリノキなどが混じる林も見られる。また、ハナガガシ（葉長檜）、フクレギシダなどの貴重な植物も生育している。

## 【現状】

熊本県自然環境保全条例に基づき、角山の北西斜面一帯は熊本県福連木角山自然環境保全地域の特別地域に指定されている。また、福連木の国有林は「福連木官山」として親しまれ、「福連木植物群落保護林」「郷土の森」にも選定されているので、特に厳正な保存が望まれる。

## 複合 10 阿蘇波野原の山地草原

群落 阿蘇市（旧波野村）

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群  
C 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布など、分布境界域の産地に見られる群落または個体群  
E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの  
G 乱獲その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある群落または個体群

## 【概要】

阿蘇外輪山の東部に広がる波野原は、ススキ、トダシバ、ワラビなどを主とする草原で、野焼き、採草、放牧などによって人為的に維持されてきた二次草原である。人為の影響の多少によって植生は様々に変化しているが、キスミレ、ハルリンドウ、アソノコギリソウ、シオンなどの草原生植物が生育し、ヒゴタイ、ヤツシロソウ、ハナシノブ、マツモトセンノウ、ツクシトラノオ、ツクシクガイソウ、ケルリソウなどの希少植物も数多く自生している。さらに、国内での南限となるスズランも点在し、熊本県自然環境保全地域に指定されている。

## 【現状】

昭和 30 年代までは広大な草原が広がっていたが、その後の拡大造林によって一面の人工林となっている。また、残された草原も農業の機械化や化学肥料の利用、畜産業の低迷、過疎化、高齢化などによって利用されなくなり、放置されて藪になっているところが多く見られる。最近 10 年の間にも草原の減少は続いていて、阿蘇市波野地域（旧波野村）では、およそ 300ha の草原が消滅している。なお、「熊本県野生動物植物の多様性の保全に関する条例」で、マツモトセンノウの保護区として中江生育地保護区（約 0.3ha）が指定されていたが、植林されたスギの成長のため、生育環境が悪化し保護区は解除された。

複合 群落	11 菊池溪谷の自然林	熊本県カテゴリー
	菊池市・阿蘇市（旧阿蘇町）	3 対策が必要

【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

【概要】

菊池溪谷は深葉国有林の標高 500～1,000mに位置し、阿蘇外輪の北西部に源流を持つ菊池川の水源地で優れた景勝地としても知られている。溪流に沿った平坦な立地には、ケヤキ林（ヒメウワバミソウケヤキ群集）が成立し、豊富な植物相が見られる。特に、広河原付近のケヤキ林は樹高が 30mに達する見事なものである。このケヤキ林の上部の急峻な斜面や尾根筋の標高 700～900mには、モミ林（シキミ—モミ群集）が成立する。さらに、このモミ林の上部には、樹高が 25mに達するブナ林が見られるが、この林床に密生していたスズタケは、シカの食害による立ち枯れが目立ち、その他の下層植生も減少している。本地域のケヤキ林、モミ林、ブナ林は、いずれも県北部に残存する唯一のものであり、菊池川の下流域に見られるウラジログシ林も含めて、様々な形態の森林植生が見られる貴重な場所である。

【現状】

菊池溪谷は、阿蘇くじゅう国立公園（一部特別地域）に含まれており、面積の著しい変化はない。しかし、熊本地震による斜面の大規模な崩壊やシカの食害による下層植生への影響は大きく、早急な対策が必要である。この地域一帯は、全国屈指の植物相の豊富なところであり、特に厳正な保存が望まれる。

複合 群落	12 阿蘇俵山山麓の二次草原	熊本県カテゴリー
	阿蘇郡西原村	3 対策が必要

【選定基準】

B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

【概要】

俵山（1,095m）は西原村と南阿蘇村にまたがる阿蘇外輪の西部に位置し、都市近郊にありながら多くの野草を見ることができる山として親しまれている。俵山の東斜面は阿蘇カルデラの南郷谷に面した急勾配の地形であるが、西斜面は比較的緩やかに熊本平野へと下り、山麓一帯には二次草原が広がっている。この草原は、野焼き、放牧、採草などによって人為的に維持されているもので、尾根筋を中心に短茎型の草地在らに分布し、谷部になるに従って長茎型の草地になっている。これらの草原では、ススキ、チガヤ、ネザサ、ワラビなどを主として、キスミレ、ハルリンドウ、アソノコギリソウ、サイヨウシャジン、ミツバツチグリ、カワラマツバ、ノヒメユリ、ホソバオグルマ、マツムシソウ、ノヤナギ、ロクオンソウ、スズサイコ、ハバヤマボクチなどの草原性植物が豊富に見られる。

【現状】

阿蘇くじゅう国立公園に隣接する地域であるが、面積の著しい変化はなく保存の状況は良好である。しかし、平成 28 年（2016 年）の熊本地震とその後の大雨によって大規模な崩壊が各所で発生している。この地域一帯には、ヒメノボタンやダイサギソウなどの希少な植物も自生しているので、特に厳正な保存が望まれる。

## 複合 13 阿蘇山東原野の山地草原

群落 阿蘇郡高森町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群  
 C 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布など、分布境界域の産地に見られる群落または個体群  
 E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの  
 G 乱獲その他人為の影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある群落または個体群

## 【概要】

阿蘇・波野原の南、高森町の草部、野尻方面に広がる原野を山東原野という。ここは風向きによっては中岳の噴煙の影響をもっとも強く受け、火山灰の降下も多いところである。この草原は、野焼きや採草、放牧などによって人為的に維持されているもので、ススキ、トダシバ、ワラビなどを主とする。人為の影響の多少によって、植生は様々に変化しているが、キスミレ、アソノコギリソウ、シオン、ヒメユリなどの草原生植物が豊富に見られ、ハナシノブ、マツモトセンノウ、ヤツシロソウ、ツクシトラノオ、ツクシクガイソウ、ケルリソウなどの希少な植物も数多く自生している。

## 【現状】

昭和30年代までは広大な草原が広がっていたが、その後の拡大造林によって一面の人工林となっている。また、残された草原も農業の機械化や化学肥料の利用、畜産業の低迷、過疎化、高齢化などによって利用されなくなり、放置されて藪になったところが多い。最近10年の間にも草原の減少は続いていて、多くの草原植物が消滅している。なお、「熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例」で、マツモトセンノウなどの保護区として野尻生育地保護区(約2.6ha)が指定されている。また、環境省のハナシノブ自生地保護区も2ヶ所指定されている。

## 複合 14 北向山の自然林

群落 菊池郡大津町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

阿蘇西外輪に位置する北向山(797m)の北斜面には、標高200~800mのほぼ全域にウラジログシ、イスノキを主な構成種とする自然林(イスノキ-ウラジログシ群集)が成立している。高木層には約17mのウラジログシ、イスノキが優占する他に、スダジイ、タブノキ、ヤブニッケイなどの常緑広葉樹が混生している。亜高木層にはヤブツバキ、ヒサカキ、低木層にはアオキが優占し、植被率は15~40%である。草本層は、傾斜が急で土壌の安定が悪いため植被率は5%以下である。また、山頂付近の岩礫地には、ケヤキ、イタヤカエデ、イロハモミジなどを主な構成種とする高さ18mほどの落葉広葉樹林(イロハモミジ-ケヤキ群集)が成立し、腐植質を含む土壌層が厚いので、草本層にはオオバヨメナ、キバナアキギリ、モミジガサなどが生育している。

## 【現状】

北向山の自然林は、熊本県に残存する照葉樹林としては最大規模のもので、「阿蘇北向谷原始林」として国指定天然記念物であるとともに、阿蘇くじゅう国立公園の特別保護区に指定されている。しかし、平成28年(2016年)の熊本地震とその後の大雨によって大規模な崩壊が各所で起こり、岩礫地状態の裸地が散在している。今後、崩壊地における植生の再生がどのように進むのか長期的な視点に立って注視する必要がある。なお、立野ダム建設が現在進行しており、河底部域で影響を受ける可能性も危惧される。

## 複合 15 根子岳の自然林

群落 阿蘇市一の宮町・阿蘇郡高森町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

根子岳(1,433m)は、谷が深く刻まれた急峻な地形に守られ、特異な自然林が残されている。根子岳の1,400mを超える突出した岩峰の急斜面には、ミヤマキリシマが小斑紋状に生育するミヤマキリシマ群落が見られる。この群落には、コックバネウツギ、ニシキウツギ、ウスノキ、ノリウツギ、ヤシヤブシなどが混生し、草本にはマイヅルソウ、イワカガミ、ヤマアジサイなどが生育している。また、根子岳の天狗岩の北側から東峰に至る尾根には、風衝低木林が見られ、高さ4~5mのオオカメノキ、ナナカマド、ヤシヤブシ、ニシキウツギなど、草本層にはヒメノガリヤス、バйкаツツジ、イワカガミ、オオマルバノテンニンソウなどが生育し、林内にはオオヤマレンゲ、タマガワホトトギス、ホツツジなども生育している。

## 【現状】

根子岳の自然林は、阿蘇くじゅう国立公園の特別地域内にあり、保存の状況は良好である。しかし、平成28年(2016年)の熊本地震とその後の大雨により大規模な山腹崩壊が各所で発生している。大部分が人為的に草原状態を維持している阿蘇地域において、阿蘇本来の自然の姿を知る上で極めて貴重な存在である。

## 複合 16 内大臣の自然林

群落 上益城郡山都町(旧矢部町)

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

H その他、学術上重要な群落

## 【概要】

内大臣の自然林は、五家荘の山々や宮崎との県境の稜線で囲まれた内大臣川の源流域にある。この地域一帯は、自然林の大規模な伐採が行われたところであるが、標高400~900mの緩やかな斜面には、ウラジログシが優占する林(イスノキーウラジログシ群集)が成立している。高木層には高さ20mを超えるウラジログシの他に、イスノキ、アカシデ、ツクバネガシなどが多く見られる。また、標高500~900mのやや乾燥した急斜面にはツガ林が見られ、高木層は高さ約25mのツガの他に、アカガシ、ウラジログシ、コハウチワカエデなどが生育し、低木層にはハイノキが優占している。国見岳の北斜面では、標高800m付近からブナが見られ、高木層は高さ25mに達するブナが優占する他に、ヒメシャラ、ナツツバキ、ツガ、シナノキなどが混生している。内大臣川の上流域にある天主山では、標高1,200~1,400mにツガやハリモミが多く見られ、この上部のブナ林にはアズマイチゲ、ヤマブキソウ、ヤマシャクヤクなどが生育している。また、目丸山(1,341m)の山頂に至る尾根筋にもブナ林が見られ、ここに九州では稀なカタクリが自生している。

## 【現状】

内大臣の自然林は、矢部周辺県立自然公園、森林生物遺伝資源保存林に指定されている。しかし、国見岳の登山道沿いでは立ち枯れた木々や倒木が多数見られ、シカの食害によって下層植生は極めて貧弱で、ブナ林の林床を覆っていたスズタケはほとんど消失している。一部にシカの食害を防ぐための防護ネットが敷設されているが、一層のシカの食害防止対策を進める必要がある。

## 複合 17 雁俣山の自然林

群落 八代市泉町・上益城郡美里町（旧砥用町）

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林
- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

## 【概要】

雁俣山（1,315m）は、九州中央山地国定公園の北端に位置し、比較的交通の便にも恵まれて、カタクリの花を見ることのできる山として親しまれている。雁俣山の標高 1,100m を超える二本杉峠寄りの南西斜面には、小面積ながらブナ林が見られる。このブナ林の高木層には、高さ約 30m のブナが高い被度で出現し、ミズナラ、イヌシデ、ヨグソミネバリなどが混生している。亜高木層には、ヒメシャラ、コハウチワカエデ、ツガ、モミなどが植被率 20% で見られ、低木層にはハイノキ、シキミ、ソヨゴがわずかに生育している。ブナ林のやや空中湿度の高い斜面には、九州では稀なカタクリが自生している。雁俣山の山頂直下の急峻な南西斜面や北斜面には、小面積ながらツガ林（ハイノキーツガ群集）が見られる。高木層には高さ約 17m のツガが優占し、他にコハウチワカエデ、ナツツバキ、ヒメコマツなどが混生する。低木層には高さ約 3m のハイノキが多く見られ、草本層にはツルシキミ、トウゲシバ、ヒナスゲなどが生育している。

## 【現状】

雁俣山の自然林は、九州中央山地国定公園の第 2 種特別地域内にある。しかし、登山道沿いではブナの倒木が見られ、ブナ林の林床に密生していたスズタケはシカの食害による立ち枯れが目立っている。また、カタクリの個体数も減少傾向にあり、一層のシカの食害防止対策を進める必要がある。

## 複合 18 五家荘の自然林

群落 八代市泉町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林
- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群
- H その他、学術上重要な群落

## 【概要】

五家荘の自然林は、標高 1,000m 以上の山腹から尾根にかけての部分と深く刻まれた谷沿いに見られ、ブナ林、モミ林、ツガ林、サワグルミ林、シオジ林が見られる。その中でも、国見岳から白鳥山、上福根山に至る稜線に成立するブナ林は、県下で最大規模の原生林である。高木層には樹高 25m に達するブナが優占する他に、ヒメシャラ、ナツツバキなどが混生している。亜高木層にはコハウチワカエデ、ウリハダカエデなどが多く、低木層にはシロモジ、タンナサワフタギ、アオダモなどが散在している。草本層には、バイケイソウ、ミヤマシキミ、イワヒメワラビなどが目立っている。また、白鳥山の上ノ内谷にはシオジ林が残されていて、高木層には樹高 25m に達するシオジをはじめ、サワグルミ、カツラなどが混生している。五家荘では、モミは標高 600～1,600m のやや湿った緩やかな斜面に見られ、国見岳の五勇谷にはよく発達したモミ林が成立している。モミは樹高 25m に達し、ブナ、ヒナウチワカエデ、コハウチワカエデを混える。国見岳の標高 1,700m を超える尾根部に成立していたマンサク林は立ち枯れが目立ち、その他の下層植生もほとんど見られなくなっている。

## 【現状】

五家荘の自然林は、五木五家荘県立自然公園、九州山地国定公園に指定されている。しかし、国見岳の登山道沿いでは立ち枯れた木々や倒木が多数見られ、シカの食害によって下層植生は極めて貧弱になっていて、ブナ林の林床を覆っていたスズタケがほとんど消失している。白鳥山ではシカの食害を防ぐための防護ネットが各所に敷設されていて、ネット内では以前の植生が回復しつつある。

複合 群落	19 大官山の自然林 上益城郡山都町（旧清和村）	熊本県カテゴリー 3 対策が必要
----------	-----------------------------	---------------------

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

大官山の自然林は、九州中央山地の北斜面に位置し、切剥（1,578m）、三方山（1,578m）、宮崎との県境である小川岳（1,542m）、向坂山（1,684m）などの山々に囲まれた緑川の源流域にある。この地域一帯は、自然林の大規模な伐採が行われたところであるが、標高 1,200m以上の尾根や斜面には、わずかながらブナ林が残っている。また、標高 800～1,200mの尾根筋などにはツガ林が見られ、スギ植林地以外の斜面では樹高 10～15mのシデ類やカエデ類などの落葉林が成立し、以前の植生が再生しつつある。斜面下部の溪流沿いには、サワグルミやシオジが見られる他に、ケヤキ、カツラ、チドリノキ、フサザクラ、カエデ類などが生育している。渓谷底には石灰岩の露頭もあり、シコクハタザオ、シロバナハンショウヅル、クモノスシダなどの石灰岩特有の植物もみられ、全体として種多様性の高い貴重な群落である。

## 【現状】

大官山国有林の大規模な伐採は完了し、残された自然林は森林生物遺伝資源保存林、国定公園特別地域に指定されている。しかし、シカの食害の影響で下層植生は極めて貧弱になり、林床を覆っていたスズタケの立ち枯れが著しい。この地域は、県内でも植物相の豊富なところであるので、シカの食害防止対策を進めるとともに、厳正な保存が望まれる。

複合 群落	20 市房山の自然林 球磨郡水上村	熊本県カテゴリー 3 対策が必要
----------	----------------------	---------------------

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群

H その他、学術上重要な群落

## 【概要】

熊本県と宮崎県の県境にそびえる市房山（標高 1,722m）は古くから霊峰として信仰を集めた山で、西斜面の山麓から山頂までよく発達した自然林が見られる。キャンプ場から市房神社まで続く照葉樹林帯には、シラカシ林（ツクバネガシシラカシ群集）、ウラジログシ林（イスノキーウラジログシ群集）、コジイ林（ルリミノキーイチイガシ群集）が混在していて、県内でも屈指の自然林となっている。照葉樹林帯の上部や西尾根には、アカガシ林（ミヤマシキミーアカガシ群集）が見られ、700m付近の勾配の少ない沢沿いにはケヤキ林（ヒメウワバミソウケヤキ群集）が成立している。標高 800m付近の市房神社を過ぎると尾根沿いを中心にツガ林（ツガーハイノキ群集）が見られ、6合目付近からはブナ林（シラキーブナ群集）が成立している。このように市房山は、カシ類を中心とした照葉樹林から、ツガの多い中間移行帯を経てブナを中心とした夏緑樹林に移行する垂直分布が連続して見られる山で、学術的にも極めて貴重な自然が残されている。

## 【現状】

一帯は、九州山地国定公園や熊本県立市房山自然公園に指定されている。しかし、登山道沿いでは立ち枯れた木々や倒木が多数見られ、シカの食害によって低木層および草本層の植生は極めて貧弱になっている。特に、ブナ林の林床を覆っていたスズタケのシカ食害による立ち枯れが目立っている。一部にシカの食害を防ぐための防護ネットが敷設されているが、一層のシカの食害防止対策を進める必要がある。

複合 21 白髪岳の自然林  
群落 球磨郡あさぎり町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林
- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群
- H その他、学術上重要な群落

## 【概要】

白髪岳(1,417m)に至る南北に続く緩やかな稜線には、モミ林(標高700~900m)やツガ林(標高900~1,250m)が成立している。このモミ林やツガ林の上部には、樹高が20mほどに達するブナ林が見られる。このブナ林は国内の南限域にあり、他にウリハダカエデ、ヒコサンヒメシヤラ、タンナサワフタギ、フウリンウメモドキなどが混生している。以前、このブナ林の林床はスズタケで覆われていたが、そのほとんどが消失し、シカの忌避植物であるバイケイソウ、ミヤマシキミ、イワヒメワラビだけが目立っている。さらに、山頂一帯に成立していたノリウツギ低木林は、そのほとんどが立ち枯れた状態になっている。稜線の東側斜面の標高600m以下の場所にはウラジロガシ林が断片的に残存し、標高800mを超す溪谷には帯状にシオジ林が見られる。

## 【現状】

白髪岳の山頂から猪ノ子伏を結ぶ稜線沿いは、国指定自然環境保全地域内にある。しかし、登山道沿いのモミ林やブナ林の一部では、立ち枯れた木々や倒木が多数見られ、シカの食害によって低木層および草本層の植生は極めて貧弱になっている。特に、ブナ林の林床を覆っていたスズタケは、立ち枯れが目立っている。防護ネットが各所に敷設されているが、一層のシカの食害防止対策を進める必要がある。

複合 22 五木大滝の自然林  
群落 球磨郡五木村

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林
- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群
- H その他、学術上重要な群落

## 【概要】

五木大滝は、豊かな自然林に囲まれた滝と溪谷を持つ景勝の地である。この一帯には、高木層に樹高15~20mのウラジロガシをはじめ、ヨグソミネバリ、アカガシ、イロハモミジ、アカシデ、コシアブラなどからなる林(イスノキーウラジロガシ群集)が広く成立している。亜高木層には5~15mのウラジロガシの他に、ツクバネガシ、ヤブツバキ、モミ、タンナサワフタギなどが見られる。低木層はヒサカキ、シロダモ、ハイノキ、シラキなどが生育し、草本層にはシシガシラ、コガクウツギ、フユイチゴ、クマワラビなどが見られる。溪谷に沿った林床は湿度が高く、ハイホラゴケ、キジノオシダ、リョウメンシダなどのシダ植物やナルコスゲ、ヒメレンゲ、ネコノメソウ類、ツクシチャルメルソウなどが生育している。また、中州の岩場にはサイゴクイワギボウシ、コケイランが見られ、多くの希少な植物が生育している。階段を登って大滝の上部に上がるとやや緩やかな地形となり、川沿いにはサワグルミ、シオジ、ケヤキなどの溪谷林が見られる。

## 【現状】

五木大滝一帯は、五木五家荘県立自然公園に指定され、大滝自然森林公園としても整備されている。しかし、大滝の展望台や階段などが相次いで整備されたことによって、この付近に生育していたヒメムカゴシダ、オオフジシダなどの希少植物が減少傾向にある。この地域一帯は、県内でも植物相の豊富なところであるので、これ以上の人為的攪乱が入らぬよう特に厳正な保存が望まれる。



## 複合 23 緑川河口の水湿生植物群落

群落 熊本市・宇土市

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

緑川下流の平木橋付近から緑川河口にかけての汽水域には、河川中央部及び左右両岸にヨシを中心とした広大な水湿生植物群落が発達している。また、平木橋の下流 1 km 付近では左岸側から浜戸川が流れ込み、その河川中央部及び左右両岸にもヨシ群落が見られる。群落の高さは 1~2m で、ヨシ群落の縁部には、シオクグ群落、アイアシ群落、シチトウイ群落などが、ややベルト状に広範囲に生育している。この緑川河口の水湿生植物群落は、九州内で最大の面積を有するものであり、極めて貴重な自然が残されている。

## 【現状】

緑川河口と浜戸川一帯に成立する水湿生植物群落は、面積の著しい変化はない。この周辺一帯には、水湿生植物群落だけでなく底生動物や淡水魚類の希少種が多く生息する広大な干潟が広がり、シギ・チドリ類やクロツラヘラサギの渡来地になっているので、生物多様性の観点からも特に厳正な保存が望まれる。

## 複合 24 茂串海岸の海浜植物群落

群落 天草市牛深町

熊本県カテゴリー

3 対策が必要

## 【選定基準】

D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

天草下島の西端に位置する牛深の茂串白浜と隣接する小白浜は、北上する対馬暖流の影響を受けて、県内はもちろん天草でもこの地域でしか見られないヒメキランソウ、キキョウラン、ソナレムグラ、カノユリなどの暖地性植物が多く生育している。また、ここは県内でも数少ない天然の砂浜で、砂地と岩礁が交互に織りなす海岸には多くの海浜植物が見られる。この砂浜では、ケカモノハシ、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマボウフウ、ハマオモト、ツルナ、ハマヒルガオ、ハマボッス、ハマゴウ、ハマニガナ、ハマナタマメなどの植物が見られ、礫地や岩礁にはタイトゴメ、ハママンネングサ、イワタイゲキ、ボタンボウフウ、ホソバワダンなどの植物が見られる。また、海岸に接した潮風を強く受ける斜面では、ダンチクなどの大型のイネ科植物やウバメガシ、ハマビワ、トベラ、シャリンバイ、ハマヒサカキ、マサキなどが海岸低木林を形成している。

## 【現状】

牛深の茂串白浜と隣接する小白浜は、雲仙天草国立公園内にあり、面積の著しい変化はない。しかし、毎年多くの海水浴客で賑わうところでもあり、売店やテントが海岸に設置され、海水浴客による踏圧などによって生育している植物の攪乱がみられる状況がある。この一帯の海岸は、九州本土に残された非常に貴重な自然状態の砂浜であり、全国的にも素晴らしい自然景観となっている。また、県の希少野生動植物に指定されているアカウミガメが産卵のために上陸する海岸であるので、これ以上の人為的攪乱が入らぬよう特に厳正な保存が望まれる。

**複合 25 阿蘇火山山頂の植物群落**  
**群落 阿蘇市（旧阿蘇町）**

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

- B 国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群  
 D 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの  
 E 郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの

## 【概要】

阿蘇中岳中央火口周辺は、酸性度の強い火山灰土壌や二酸化硫黄や硫化水素を含む噴気の影響を強く受け、植物が生育できない裸地の火山荒原が広がっている。火口から遠ざかるにつれて火山活動の影響は少しずつ弱くなり、火口からおよそ1,000mの範囲にはイタドリ、コイワカンスゲ、カリヤスモドキ、キシマノガリヤスが生育している。特に、砂千里ヶ浜の火山噴出物が密集する火山荒原には、コイワカンスゲからなる小丘状の群落が生息する独特の景観が見られる。大きい小丘は高さ2mを越えるものもあり、発達初期の段階の小丘状のものから、後期の火口側が枯死した楔状のものまで色々な群落が形成されている。このようなコイワカンスゲからなる小丘状の群落は、高岳山頂の旧火口内にも見られる。

## 【現状】

本地域は、阿蘇くじゅう国立公園の特別保護区内にあり、面積の著しい変化はない。また、火口周辺はもともと植物にとって生育環境の悪いところなので他の植物の侵入もなく、群落の種組成に変化はない。阿蘇中岳中央火口一帯に見られるイタドリ群落やコイワカンスゲ群落に関しては、天然記念物に指定することが望ましい。

**複合 26 狼ヶ宇土の自然林**  
**群落 阿蘇郡南阿蘇村**

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

- A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

狼ヶ宇土の自然林は、阿蘇南外輪の急峻な内壁面の標高900~1,000mに成立し、ミズナラが優占する他に、ブナ、アカシデ、ダンコウバイ、コハウチワカエデ、ナツツバキ、ヤマボウシ、リョウブ、タンナサワフタギ、オオカメノキ、オトコヨウゾメなどが混生している。これより下部の森林には、サワグルミ、ケヤキ、イヌシデ、ミズナラ、イタヤカエデなどの高木、アブラチャン、ヤハズアジサイ、キブシ、ケクロモジ、シラキなどの低木が多く生育している。林床には、ツヤナシイノデ、ハルトラノオ、ジンジソウ、サワリソウ、ハシリドコロ、イナモリソウ、オオモミジなどが見られる。また、オシャクジデンダ、オサシダ、ツクシマムシグサ、ケイビラン、ミドリヨウラク、シロバナエンレイソウなどが見られ、菊池溪谷の深葉や北向山では見られない植物が多く生育している。

## 【現状】

狼ヶ宇土の自然林は、阿蘇くじゅう国立公園の特別地域内にあるが、以前に比べると、自然林がかなり減少しているため、これ以上の人為的攪乱が入らぬよう留意する必要がある。また、シカの食害によって低木層および草本層の植生は極めて貧弱になっている。特に、ミズナラ林の林床を覆っていたスズタケが、シカの食害によってほとんど立ち枯れしていて、その他の下層植生も少なくなっている。

複合 27 鞍岳・矢護山の自然林  
群落 菊池市(旧旭志村)・菊池郡大津町

熊本県カテゴリー

2 破壊の危機

## 【選定基準】

A 原生林もしくは、それに近い自然林

## 【概要】

鞍岳山頂近くの駐車場から矢護山に向かって延びる緩やかな登山道を下ると、標高 930m 付近の平坦な尾根部に低木層にアセビが優占する群落（アセビ・ミズナラ群集）が成立している。この場所のアセビ群落は、通称アセビのトンネルと呼ばれる群生地、高木層を欠いた亜高木層に、樹高約 10m のミズナラが優占する他に、アズキナシ、ネジキ、アカシデ、アカガシ、リョウブ、ブナなどが混生している。低木層には樹高約 4m のアセビがほぼ純林をなし、イヌツゲ、ベニドウダン、タンナサワフタギなどがわずかに見られる。草本層にはスズタケ、ミヤマシキミなどの他に、上記の幼樹がわずかに点在している。さらに、アセビ群落の下縁部に位置する急峻な斜面には、ブナ林（シラキーブナ群集）が小面積ながら成立している。植被率 70% の高木層には、樹高約 20m のブナ、ミズナラ、クマシデが優勢で、アズキナシ、イヌシデ、コハウチワカエデなどの落葉広葉樹が生育している。亜高木層・低木層には、シラキ、シキミ、イヌツゲ、コバノミツバツツジなどが見られ、草本層の植生は極めて貧弱になっている。

## 【現状】

鞍岳・矢護山の自然林は、阿蘇くじゅう国立公園の特別地域内にあるため、面積の著しい変化はない。しかし、ブナ林の林床を覆っていたスズタケは、シカの食害によって少なくなり、その他の下層植生も貧弱になっている。この一帯のブナ林は面積が限られているので、シカの食害防止対策を進める必要がある。また、鞍岳から矢護山にかけての山頂部や尾根部に、これほどまとまった規模のアセビ群落が見られるのは稀で、貴重な植生であり厳正な保存が求められる。

## (3) 文献

1. 五家荘の会「泉村の自然」編集委員会（1993）泉村の自然. 泉村役場.
2. 熊本県（1978）第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書. 環境庁自然保護局.
3. 熊本県（1979）第 2 回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書. 環境庁自然保護局.
4. 熊本県（1988）第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査. 環境庁自然保護局.
5. 熊本県（1988）第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 生育状況調査. 環境庁自然保局.
6. 熊本県希少野生動植物検討委員会（2009）改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物ーレッドデータブックくまもと 2009ー. 熊本県環境生活部自然保護課.
7. 熊本県希少野生動植物検討委員会（2014）熊本県の保護上重要な野生動植物ーレッドリストくまもと 2014ー. 熊本県環境生活部自然保護課.
8. 熊本記念植物採集会編（1969）熊本県植物誌. 長崎書店.
9. 宮脇昭（編著）（1981）日本植生誌 九州. 至文堂.
10. 高野茂樹（1990）八代地方のコジイ林. BOTANY. No. 40. 熊本記念植物採集会.
11. 高野茂樹（1992）県内沿海地分布するタブノキ林について. BOTANY. No. 42. 熊本記念植物採集会.
12. 高野茂樹（1996）水俣市の植生. BOTANY. No. 46. 熊本記念植物採集会.
13. 高野茂樹（2002）八代地方のコジイ林について. BOTANY. No. 52. 熊本記念植物採集会.